

金澤北ロータリークラブ



発行 2021.6.17thu

No. 976

事務局/金沢市大手町15番15号 金沢第2ビル4階
TEL:076-254-6368 FAX:076-254-6395
E-mail:office@kanazawa-north.jp
HPアドレス:http://www.kanazawa-north.jp

中田 修子さんを偲んで

会員 畠 善昭

私が敬愛してやまない中田 修子さんが、去る5月6日払晩、満72歳で幽明界を異にされました。茲に謹んで哀悼の意を表する次第であります。以下、親愛の念を込めて修子さんと記することをお許し下さい。



時あたかもコロナ感染症に対する非常事態宣言が発令中とあって、葬送の儀は身内だけで行われた由、よって私が訃報に接したのは修子さんの昇天後でした。私とは仕事を通じてのお付き合いに加え、金沢北ロータリークラブ「ゴルフ同好会」でも親しくご厚誼させていただきましたのでお別れの言葉を書かせていただきました。仕事上の関係からきた思い出は尽くすに尽くせないのので今回は省かせていただきます。

数年前12月の暮れも押し迫ったとき「先生大変や旦那が倒れて今から病院に行く すぐ来て」と連絡が入りました。たまたま年末のお休みの日であり病院に駆けつけました。修子さんの懸命な看病の甲斐もなくご主人は仏さまに手を引かれながら浄土の道に行かれました。しばらくして「先生弔辞読んでや」と修子さんはおっしゃいました。私が分かりましたとの返答をする前に

結論をご自分で出されての決断の速さには、さすが「中田屋」を引っ張ってきた自負がありありと感じられました。ご主人がお亡くなりになりしばらくは痛々しい様子を呈しておられましたが、今の中田屋を築かれた一人として元気を取り戻し、それ以来、何事にも「真実一路」の信念にもえる情熱で私も何度も勇気を頂きました。そのお人柄にはお礼の言葉もありません。物事の考えかたもプラス思考、周りの雰囲気を見ての重い発言もたびたびそばにいた人に大きな感動すら与えてきました。仕事の面でも中田屋の役員としてのミッションも果たされました。追懐すると、思い出がありすぎて紙面の関係で書ききれません。家庭でも、修子さんは40年にも及ぶ結婚生活の中で数々の有形無形の金字塔を打ち立てられました。これ全て、後世に裨益するものばかりです。今後さらに開花・結実するであろうことを信じて今までの感謝の言葉とさせていただきます。

修子さんの超人的なお働き、本当に本当にお疲れ様でした。今はどうか安らかにお休みください。合掌



2014.4.12 ザ・カントリークラブ・能登にて
中列左から二人目

第2209回 例会

4月15日(木) 晴れ / 12:30 ~ 13:30 [松魚亭]

1. 講話

囲碁インストラクター
長尾 華奈 氏
「囲碁から学んだこと」



1. 出欠

出席 27名 欠席 16名

1. ニコニコボックス

中村(實)君、松田君

長尾さんをお迎えして お話たのしみです
畠 君 長尾さんをおむかえして 楽しみにしていましたが急用で
松本君 ハイアットホテルでのお花見例会が盛大に38名の参加ありがとうございました。最後の親睦委員長としてお礼申し上げます。追伸 無理にお誘いした方々にはお詫び申し上げます。

的場君 4月10日の家内の誕生日にきれいなお花を有難うございました。4月12日お花見夜間例会楽しかったです。松本親睦委員長に御礼申し上げます。

合計 9,000円 (累計 510,000円)

7月予定

- 7月 1日(木) 例会 (新会長・幹事・統括委員長挨拶)
・7月定例理事会
- 7月 8日(木) 例会 (統括委員長挨拶)
- 7月 15日(木) 例会
- 7月 22日(木・祝) 休会
- 7月 29日(木) 例会

コロナウイルス流行状況により中止・変更になることがあります。
金沢市内 RC の例会変更は事務局へお問い合わせください。



「大乘寺のあじさい」

●会長/中村 實博 ●会長エレクト/水巻 啓光 ●副会長/小泉 幸雄

●幹事/松田 光代 ●副幹事/喜多 利行 ●会場監督/喜多 利行 ●会計/小泉 幸雄

●クラブ会報委員長/的場 晴次

●会員数/43名 ●クラブ設立/昭和48年10月3日

◎例会日/木曜日 12:30~13:30

◎例会場/松魚亭 金沢市観音町3-4-45 TEL:076-252-2271 FAX:076-252-2273

コロナ対策支援事業

奉仕プロジェクト委員会 統括委員長 内堀 茂

令和3年5月27日、コロナ対策支援事業として金沢大学附属図書館へ飛沫防止パーティション82台を寄贈しました。仕切りの無い4人掛け・6人掛け机にPET製の特注品を設置することにより、定員の58%に制限して使用していたものが、82%にまで回復し学生の安全な学習環境の整備を支援することができました。

コロナ対策支援事業は、奉仕プロジェクトの今年のテーマで、コロナ禍の中ロータリーとして何ができるのか模索していました。そんな折、テレビのニュースで会員企業の馬場化学工業（株）が新型コロナウイルス対策飛沫パーティションという商品を取り扱っていることを知り、これで支援できる場所がないか考えました。

ロータリーの事務所へサンプルを置いたところ、松田幹事より金沢大学の図書館か学生食堂はどうかと助言をもらい、早速金沢大学附属図書館に駆け付け話を伺うと「使用できない座席が多数あり、学生の入館を一部お断りし

ている状況なので是非お願いしたい」とのこと、急ぎプロジェクトを進めました。

現地確認をした上で必要な形状と数量を決定し、会員企業である馬場化学工業で試作を重ね納品となりました。納品時には馬場化学工業の社員さんが全数量を組み立てて納めましたので、大学当局からは大変感謝されました。

今回の支援事業は、会員企業の協力も得られ、支援先にも感謝された奉仕活動となりました。



泉鏡花とアルコール消毒雑感

会員 畠 善昭

一昨年十二月に端を発した新型コロナウイルスのパンデミックは、世界中を不安と恐怖に陥れた一方で、私たちがこれまで当たり前だと思い込んでいた、いろいろな物事の大切さや価値に改めて気づかせてくれました。

例えば、人と人が向かい合って話すことの大切さ、人が集まって楽しむことの素晴らしさ、移動に交通機関が利用できる有難さ。私たちの暮らしがさまざまな人の支えで成り立っていることへの感謝の思い、今まで無意識のうちに、生活を支える仕事を優先し、家族と向き合うことを後回しにすることが当たり前になっていました。

今回の感染症で多くの人が尊い生命を落としました、そして、その犠牲の上に、私たちは生きていくことの有難さ、生命のかけがえのなさを再認識させられました。

これから先も、ウイルスとの戦いは続くと思いますが、戦いより共存の道を選択しなければと最近特に感じ始めました。幾度ともなく経験した緊急事態宣言、まん延防止重点措置、更には外出自粛要請 なんと奇妙な言葉だろうか。外に出ないように 日中の日長に向かって行くところがないと言うよりも、どのお店も開いてない。家にいる事しかできなく、図書館も開いてない、ここは我慢して家で本を読もうか。

囲碁も密集にあたるし、消去法でいったら、これしかないと思ひ、しぶしぶ、金沢が生んだ偉大な文豪 泉 鏡花の小説を読んだ。

泉 鏡花の「高野聖」を選んだ。何で、泉 鏡花かと言えば単純極まりない。昔のペンネームが「畠 芋之助」だからと言う親近感からくる単純な思いつきからか？

ついでに作家「泉 鏡花」の隠れたことも知った。

この方は金沢市下新町の生まれで馬場小学校で学ばれた。

また、極度の潔癖症だった。バイ菌を怖がりお刺身は食べない。お茶やお酒は沸騰するほど熱くして飲む。

これもすべて、明治時代に流行った「コレラ」とか「赤痢」の伝染病から身を守ることに身につけたらしい。

いつも消毒用のアルコールをバックに入れ、所かまわずに手指の消毒をしていたことも知った。

この小説のところどころにその片鱗が出てくる。

例えば、宋朝と茶屋の女との間にこんなやりとりがある。

「もし、姉さん。この水は こりゃ井戸の水でございませうか」

「いんね、川のでございませう」

「山下の方には大分流行病がございませうが この水は何から、辻の方から流れて来るのではありませうか」

宋朝が病気にかかることを気にして、新鮮な水かどうかを確認しています。

ちなみに、この「流行病」とは明治時代に流行した「コレラウイルス」でした。慎重すぎる泉 鏡花の人柄がにじみ出ている作品です。

今のコロナウイルスに置き換えてみても、うなずけるところが沢山あります。

終わりになりますが、我が国の政府に対して「危機管理」の重要性を訴えたいと思う。

なぜならば、コロナが発生して一年半の時が過ぎようとしています。何事も「後手 ごと」で何ら対策が進んでいない。もとに戻れ、会員諸兄と旅に出たり、ゴルフに興じたり、語り合いたいと思ふ毎日です。

くれぐれもコロナウイルスに感染しない感染させない。ご自愛ください。